

きずな

CONTENTS March 2013

02 泌尿器科の紹介

看護部

04 第3回、第4回の市民健康講座を開催しました

診療技術部 臨床工学科

05 臨床工学技士から見た 血圧計の選び方・使い方

06 市立湖西病院改革プラン評価の概要

08 新任医師紹介 平成24年度 潜在看護師再就業講習会 市立湖西病院 健康まつり

(泌) 尿器科医師紹介

副院長兼血液透析センター長

中西 利方 (中央)

日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医

「さらなる信頼と貢献を目指し、泌尿器科医師3人体制で泌尿器科診療を充実させていきます。」

医長

青木 高広 (右)

日本泌尿器科学会専門医、日本泌尿器科学会指導医

「地域医療に少しでも貢献できるよう、微力ではありますが、これからもよろしくお願いいたします。」

医師

加藤 大貴 (左)

「昨年7月に当院へ赴任となりました。地域の皆様方に信頼していただけるよう、日々診療に励みます。よろしくお願いいたします。」

基本理念

「信頼」と「貢献」

患者様の権利を尊重し、理解と納得に基づいた思いやりのある医療を行い、愛され「信頼」される病院を目指します。

地域の方々の健康増進と生命を守るために、また中核病院として地域の医療水準の向上に「貢献」します。

基本方針

- 1 医の倫理に基づき、すべての方々に平等に人格、権利を尊重し、心のごもった医療を提供します。
- 2 常に自己研鑽に努め、高度で質の高い医療を提供します。
- 3 病院内の各部門が相互に協力・連携し、安全な医療を提供します。
- 4 他病院、他診療所等と連携を図り、地域の医療の貢献に努めます。
- 5 医療を通じて地域の方々に安心と信頼を得られるよう努めます。

Vol.

14

泌尿器科の紹介

新しく体外衝撃波結石破碎装置を購入し 尿路結石の治療を開始しました

泌尿器科 中西 利方



●(写真1)ESWLソノリス・アイシス全景

泌尿器科では、今回、新しく腎尿管結石の治療に使用する体外衝撃波結石破碎装置を購入しました。現在使用中のESWL装置が10年の耐用年数を経過したため、新規にエダップ社製ソノリス・アイシスに買い替えました。(写真1)ソノリス・アイシスの特長は、以下の点です。電気伝導式テクノロ

ジーにより、照射エネルギーと焦点サイズを可変させ結石を細かく体内で碎石し、高い結石碎石効果が得られます。ジェネレーターの改良により、焦点深度が17cmと深く肥満体の患者様にも対応でき、開口部も29cmと広いことにより患者様への痛みを軽減します。また、X線透視の解像度も高く改良され、タッチパネルでの

自動焦点合わせが可能となり、操作性が良く治療時間が短くなります。以上により、これからの体外衝撃波結石破碎術(以下、ESWL)の治療に期待していただくと確信しています。現在、腎結石・尿管結石については、ESWLと内視鏡的治療ですべての結石を治療しています。ESWLは、外来において麻酔を使用せず、鎮痛剤の投与のみで日帰りで治療を行っています。ESWLでは治療できない尿路結石については、入院の上、経

尿道的結石碎石術などの内視鏡的治療を行っています。尿路結石の治療においては、結石の大きさや数だけでなく、水腎症など腎臓の状態や尿管狭窄など自然に結石が排石されない状況、合併症の有無などを、尿路造影やCTなどで正確に診断することにより最適な治療を選択します。

さて、血液透析センターが開設してから2年あまり経過しましたが、その間に透析患者様の数は、30人から60人へと増加しています。(写真2)この2年間、当院で透析を始めたか、あるいは転院されてきた患者様の人数は、42名に上ります。それらの患者様の透析をしなければならぬ慢性腎不全の原因となる疾患は、糖尿病性腎症が18名、慢性糸球体腎炎が16名、高血圧や動脈硬化などからくる腎硬化症が5名、遺伝性の嚢胞腎が3名となっています。(図1)ここ10数年来、血液透析導入となる患者様での糖尿病性腎症の比率が第一位となっています。また、当院で血液透析を開始した年齢は、38歳〜79歳で平均年齢は66歳と高齢化していますが、これも全国平均と同等の結果でした。血液透析は、午前と午後に分け、1日2クール行っています。

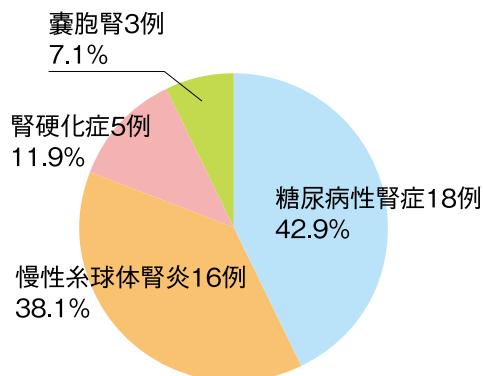


● (写真2) 血液透析センター内の様子

近年、蛋白尿や腎糸球体濾過量(GFR) $60 \text{ mL/min/1.73 m}^2$ 未満が3か月以上持続する病態、簡単に言うと、腎臓の働きが60%以下になった状態を、慢性腎臓病と表しています。これは、慢性腎臓病の段階で積極的に治療に介入し、慢性腎不全への進行を抑制しようというものです。重要な点

は、血圧の管理と食事です。血圧を管理することにより、腎機能の低下を抑え、心臓血管病の発症を下げ、死亡の危険性を減らします。慢性腎臓病の食事はステージ別に決められているのですが、例えば尿蛋白が 0.5 g/日 以上のステージG3の場合、蛋白摂取量を $0.8 \sim 1.0 \text{ g/kg}$ 理想体重とし、塩分

摂取量を $1 \text{ 日 } 6 \text{ g}$ 以下が勧められています。患者様個人の腎機能や心臓血管病などの合併症などにもよりますので、当院の腎臓内科や循環器内科に受診され、担当医師と管理栄養士にご相談ください。なかでも、慢性腎不全となる原因で一番多い糖尿病については、蛋白尿が出現すると腎機能低下が進行しやすいので、早期から生活習慣、食生活の改善が必要です。慢性腎臓病の発症の危険因子としては、高齢、家族歴、検尿の異常や腎機能異常、脂質異常症、高尿酸血症、鎮痛剤などの常用薬、高血圧、耐糖能障害や糖尿病、肥満およびメタボリックシンドローム、膠原病、感染症、尿路結石など様々なものがあります。慢性腎臓



● (図1) 最近2年間で血液透析導入となった慢性腎不全の原疾患

病を発症しないためにも、日頃から食生活を中心に規則正しい生活習慣を身につけることが肝要であると考えます。

長い間、新臨床研修医制度などの影響で医師は都市部に集中し、地方の公立病院の医師不足は深刻な状況となっていました。当院でも、8年の間、医師不足に悩んでいました。当院の泌尿器科は、以前より日本泌尿器科学会の専門医教育施設に認定され、3年前までは研修医を常時受け入れていました。そして、ようやく泌尿器科でも3年ぶりに後期研修医の加藤大貴医師を迎え、3人体制となりました。泌尿器科医師は、外来、病棟、手術室、血液透析室、レントゲン室、結石破碎治療室を、一日中動き回っています。また人員不足で外来待ち時間が長く患者様にはご迷惑をおかけしますが、今回の増員により、泌尿器科では1日約80人の外来患者様、60人の透析患者様を診察し、年間約300件以上の手術を行うことができるようになりました。これからも、さらなる信頼と貢献を目指し、泌尿器科医師3人体制で泌尿器科診療を充実させていきますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

第3回、第4回の市民健康講座を開催しました

好評の市民健康講座は、9月29日に「これで安心在宅介護シリーズ3 一気持のよい排泄のお世話・身体の拭き方・着替え・床ずれ予防」について、また11月24日には、「子供の急変時、こんな時どうする？」をテーマに第3回と第4回を開催しました。

第3回市民健康講座 「気持ちのよい排泄のお世話・身体の拭き方・着替え・床ずれ予防」

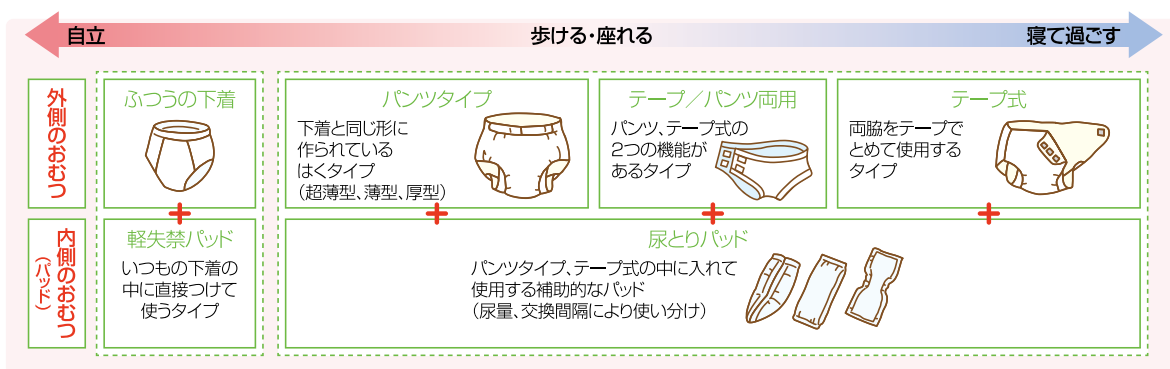
今回のメインテーマは排泄に関するものでデリケートな内容でした。

「排泄のお世話」は、する側もされる側も心を痛めるお世話です。オムツの種類(図参照)や上手な当て方など、さりげなく、すばやく行えるコツを体験していただきました。参加者からは、「現在介護をしているので参考になった」また、「オムツの当て方など、とても勉強になった」というご意見も聞かれました。

「体の拭き方・着替え」は、寝たきりの方でも身体を清潔に保ち、気持ちよく毎日を過ごせるよう、自宅で簡単にできる体の拭き方・着替えのポイントなどを説明しながら実演しました。(写真1)「麻痺の介助方法をもう少し知りたかった」という声もありました。介護する側にも、される側にもやさしいケアの方法や、介護と上手に付き合っていくために、ご自宅で困っていることや疑問点など、看護師に遠慮なく相談ください。ちょっとした工夫で、負担を軽減できることもあります。



●(写真1)寝たきりの方の着替えのポイントを説明しながら実演しているところ



第4回市民健康講座 「子供の急変時、こんなときどうする？」

講師の小児科部長夏目博宗からは、小児の死因の第1位は不慮の事故であり、交通事故が最も多く、0歳児においては窒息が第1位であること、小児の事故は重要な健康問題につながるため、大人がそばにいて適切な処置対策をすることの重要性と事故を未然に防ぐことの大切さについての講演がありました。(写真2)

看護師からは「発熱・けいれん・嘔吐・下痢・誤飲」の症状と対処方法、医療機関への受診の目安などについての説明を行いました。



●(写真2)夏目博宗医師による講演の様子

発熱(38.5℃以上)の受診の目安

- 生後3か月未満
- 泣いたり笑ったりせず、無表情で気が無い
- 一日中ウトウトと寝たようにしている
- 顔色が悪く呼吸が苦しそう

下痢の受診の目安

- 生後3か月未満で何度も吐く
- 元気がなくウトウトしている
- 尿が少なく唇や口の中が乾いている
- 水様便が頻回に出る
- 便に血が混じる

嘔吐の受診の目安

- 続けて何回も噴水のように吐く
- ひきつけを起こすか、意識がぼんやりしている
- 強い頭痛を伴う
- 吐いたものに血液がついている
- 尿が8時間以上出ない

1つ以上あてはまる場合は受診を勧めます。

子ども(特に乳幼児)は、具合の悪さを言葉にして伝えることができません。しかし多くの場合は、顔色が悪い、元気がない、食欲がないなど様子がおかしいというサインがあります。子どもの様子を普段から気にとめ、こうしたサインを見逃さないようにしていきましょう。そのためには、子どもとのスキンシップが大切です!

臨床工学技士から見た血圧計の選び方・使い方

はじめに

近年、高血圧症の患者様には、家庭で血圧を測定することが推奨されるようになりました。これは、家庭での血圧測定の方が早朝高血圧や夜間高血圧を測定しやすいことと、高血圧による脳卒中などの合併症の発症予測に有効であることが実証されたためです。

血圧計の正しい選び方

高血圧になる可能性は誰にでもあります。健康な人も、定期的に血圧を測ることが勧められています。病院で測定するほか、家庭でも定期的に測定すれば、高血圧を発症していないかチェックすることができます。家庭用の電子血圧計も近年では精度が向上し、治療のデータとして十分に活用可能なレベルに至りました。

電子血圧計と従来の水銀血圧計との大きな違いは、測定方式にあります。従来の血圧計が腕に巻いたカフの内側に聴診器を入れ、コロコフ音という血管音の変化を聞き取って血圧を測定していたのに対し、電子血圧計ではオシロメトリックという方式で血圧を測定します。オシロメトリック方式とは、カフに空気を送り込んで動脈を閉塞した後、排気してカフを減圧する過程で血管壁に生じる脈波動に特殊な計算式をあてはめて血圧を測定するという方法です。

オシロメトリック方式の電子血圧計は構造がシンプルで測定方法も簡単なため、家庭での血圧測定に適しています。



●上腕(二の腕)で測定する上腕型

電子血圧計の種類には、腕を通して測定する据置型や上腕(二の腕)で測定する上腕型、手首に巻いて測定する手首型や指先型などの種類があります。

指や手首で測定する血圧計は、手軽で持ち運びもしやすいのですが、あまりお勧めできません。指で測るタイプは、振動などで正確に測れなかったりするばかりか、病院で



●手首に巻いて測定する手首型

測る上腕の血圧とは少し異なり、末梢循環障害を起こしている人では測定値が大幅に変わる場合や測定そのものができないこともあるので注意が必要です。そのため、店頭ではあまり見かけなくなりました。

手首で測定するタイプの血圧計では、心臓の高さにして測定する必要があります。しかし、心臓の高さで測定されていない場合も多く、正確な数値が出ないこともあるのです。

現在は、上腕で測るタイプの血圧計が推奨されています。病院では一般に上腕で測定するので、上腕で測定する自動血圧計が信頼できます。高血圧を発症している人は、特に血圧を定期的に正確にチェックすることが重要なので、高血圧をコントロールするには、まず血圧計を正しく選び、きちんと測ることが大切です。

家庭での血圧測定

日本高血圧学会のガイドラインによると、血圧の正常数値は上の血圧が130未満、下の血圧が85未満とされています。最高血圧が130～139、最低血圧が85～89の場合、正常高値とし高血圧の前段階として生活習慣の改善を積極的に求められます。血圧は1日のなかでも変動しますので、正常高値の場合や薬物治療を必要とする高血圧の場合は1日に何回か自分で測定して記録し、医師に提出するとより正しい診断や治療方針を得ることができます。家庭用血圧計には様々なタイプがあり、指で測るなど簡易なタイプも登場していますが、高血圧の治療を必要とする人は、できるだけ正確な値が測定できるよう、上腕で測るタイプのほうが望ましいでしょう。

家庭で血圧を測る時は、背のある椅子に腰かけた状態で、上腕にマンシェットという圧迫帯をゆるくきつくもない程度に巻きます。マンシェットの高さは、心臓の高さと同じになるようにします。前腕は机などで支え、筋肉が緊張しないようにします。測定する30分前までの食事や運動、喫煙、入浴などは血圧に影響を与え、高血圧値になったりしますからこれらは避けるようにし、安静を保って測定します。

血圧はさまざまな要因で変動するので、毎回できるだけ同じ時間、同じ条件のもとで測ることが大切です。朝起きたとき、就寝前など測る時間を決めて習慣にするとよいでしょう。

まとめ

- 血圧計は上腕で測定するタイプを選び、手首で測定するタイプは旅行時の補助的な使い方をする
- 測定する条件は毎回できるだけ同じ時間(起床時・就寝前など)で習慣付けて測定する
- 測定する時は必ず30分前までの食事・入浴・喫煙は行わない
- 説明書に従って正しく使用する

主な施策	平成23年度の取り組み	平成23年度の目標値と達成状況
人工透析患者の増加に対応するため、病床を増やす。	患者数は、建設当時28人であったが、平成21年度末で32人、平成22年度末は48人、平成23年度末では55人となった。	○ 目標 51人 実績 55人
早期の電話による催告・催告状等の文書による催告を強化する。	催告状は、診療のあった翌月末に送付し、その後、毎月末にも送付している。催告状の送付後来院しない場合は訪問する。 臨戸徴収は、約束した日に行っている。	○ 目標 平成23年度分の収納率を22年度実績99.8%より0.1%引き上げる。 実績 平成24年5月時点で99.9%
人間ドックの結果により、要受診者への受診の案内を送付し、追跡調査を実施する。	人間ドックの結果で、要受診者・要精検者全員に紹介状を作成し、結果と共に送付することにより、病院受診をお勧めした。また、返信された結果報告書から、追跡調査を行い診断結果をまとめると共に、当院受診率の調査を行う。	○ 目標 当院受診率を65%(平成22年度当院受診率58.6%)を目指す。 実績 平成23年度ドック受診者1,198名内対象者700名、この内結果報告書回収344名。当院受診者は230名で受診率は66.9%であった。
使用料及び手数料の見直しを行う。	特定検診の集合契約がA契約とB契約があるものを、B契約に一本化した。それにより、約600万円の収益増となった。	○ 特定検診の集合契約がA契約とB契約があるものを、B契約に一本化することを目標値とした。実績は、取り組みのとおりに。
既存の業務委託について、長期継続契約を導入して委託経費を削減する。	平成23年度は、平成22年度に3年間の長期継続契約をした患者給食業務(加工費)、設備総合管理、設備保守、洗濯及びリネン管理の4業務が継続となった。それにより3年間で約770万円の予算削減となった。新たな長期継続契約はできなかった。	○ 4業務以外の長期継続契約について検討することを目標値とした。実績は取り組みのとおりに。
診療材料の納入単価を民間病院と比較し、高価なものは低価格を図る。	他病院の納入単価と比較して高額なものは引き下げをした。平成23年度では、306品目中、5品目の回答があり、2品目は当病院が安く、1品目が同額、2品目が高く納入していた。2品目については、交渉により引き下げることができた。	○ 他病院と比較して高額なものについては、すべて引き下げること目標値とした。実績は取り組みのとおりに。
毎年、患者満足度調査や接遇研修等を実施する。	アンケート調査を平成23年6月から8月に実施する。 加重平均 21年度=1.25 22年度=1.46 接遇研修の実施。	△ 目標 アンケートの患者満足度=平均1.50 接遇研修を実施する。 実績 アンケートの患者満足度=加重平均1.49 1月23日に接遇研修を実施した。
主要疾病毎にクリニカルパスを作成し、活用する。	平成23年度中に、24のパスを策定した。平成23年度末現在、当院のパスは入院と外来93のパスである。利用率は、25.1%であった。	○ 目標 2以上のパスを策定し、利用率の目標値を20%に設定した。 実績 取り組みのとおりに。
ソーシャルワーカーを確保し、患者からの退院相談等に応じる体制をつくる。	ソーシャルワーカーを平成22年4月から1人配置した。 看護師1名と退院調整及び相談等を行う。	△ 目標 退院調整相談件数240人 実績 退院調整相談件数128人 一般医療相談者数271人
市民健康講座を開催し、健康予防を図る。	「開かれた病院」を目指して、医師をはじめ看護師、薬剤師、技師等による市民健康講座を開催する。	○ 目標 年5回の健康講座の開催を目標値に設定 実績 9/17、10/15、11/19、12/17、1/21に市民を対象に開催した。
病院まつり等を開催し、親しまれる病院づくりを図る。	市内中学生によるアンサンブルコンサート、理学療法士による教室、簡易健康診断、栄養科ブース、院内の研究活動などの展示を行った。	○ 目標 年1回の健康まつりの開催を目標値に設定した。 実績 3月17日に開催
病院広報誌やホームページを充実し、情報提供を積極的に行う。	広報「きずな」を年3回発行した。 ホームページは、リニューアルを行いリアルタイムで見やすいものとする。	○ 目標 広報「きずな」の発行を年3回、ホームページをリアルタイムで修正する。 実績 取り組みのとおりに。
外来診療の進行状況表示などの適切な案内情報(一声運動)を提供する。	外来案内ディスプレイに待ち時間を表示している。また、重篤患者及び救急患者の診療時には、順番が前後する旨を掲示している。	○ 目標 待ち時間を患者さんに分かるように工夫する。 実績 外来案内ディスプレイに待ち時間を表示している。また、重篤患者及び救急患者の診療時には、順番が前後する旨を表示した。

注)○は達成、×は未達成、△は一部達成しましたが目標値にはいかなかったことを示します。

詳細はホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。(URL◎<http://www.hospital.kosai.shizuoka.jp/>)

市立湖西病院改革プラン 評価の概要

平成21年3月に策定しました市立湖西病院改革プランに基づき、経営改革に取り組んでまいりました。この度平成23年度における取り組みと評価について改革プラン評価委員会に報告いたしました。その内容をお知らせします。

1 平成23年度数値目標の状況

項目	プラン目標	実績	比較	達成の可否
経常収支比率	100.3%	92.2%	▲8.1%	×
医業収支比率	80.8%	78.3%	▲2.5%	×
職員給与費対医業収益比率	53.2%	58.8%	5.6%	×
病床利用率	70.0%	42.5%(54.2%)	▲27.5%(▲15.8%)	※×
入院患者1人1日当り診療報酬	33,100円	40,000円	6,900円	○
外来患者1人1日当り診療報酬	8,000円	8,900円	900円	○
年間入院患者数	51,240人	31,126人	▲20,114人	※×
年間外来患者数	98,245人	93,467人	▲4,778人	※×

※() 病床を除く
※病床利用率、年間入院患者数及び年間外来患者数につきましては、常勤医師の確保ができなかったため未達成となりました。

2 目標達成のための取り組みに対する評価(主な内容を抜粋)

主な施策	平成23年度の取り組み	平成23年度の目標値と達成状況
女性・退職医師等のライフワークに即した医師を雇用する。	健診センターに休業医師を、小児科外来、内科(糖尿病)外来に女性医師を非常勤として採用した。今後も診療科の補充等を検討した中で、非常勤医師の採用を積極的に行う。	○ 目標 各診療科で医師の補充が無い場合、その補充を目標とした。 実績 取り組みのとおり。
業績による特別手当を支給する。	業績による特別手当の支給は、湖西市の勤務評定に合わせる。医師の業績による能率手当は、平成23年度より実施する。	○ 目標 医師業績の能率手当を実施する。 実績 医師への能率手当は平成23年5月から支給した。人事評価による手当反映は平成24年度から実施。
大学院生を採用する。	平成20年10月に規定を設け、浜松医科大学と協定を締結し、かつ各教授へ制度の紹介を行った。また、修学資金の活用をホームページに掲載した。	× 目標 大学院生1名の採用を目標値に設定 実績 大学院生の採用は無かった。
医師の業務軽減のため、非常勤嘱託医を増員する。	浜松医科大学へ日直・宿直の医師派遣を引き続きお願いした。また、医師業務軽減を図るため、2名の医師事務補助員を採用し、平成23年4月から点数加算ができるようにする。	○ 目標 2名の医師事務補助員を設置することを目標値に設定 実績 派遣職員2名により平成23年4月から点数加算ができるようにし、平成24年度から正規職員を採用した。
病診連携を強化し、診療所からの検査依頼、オープンベッドの利活用を促進する。	連携する医療機関の契約を増やしていく。市内に新たな整形外科等が開業したらお話しする。	○ 目標 連携する医療機関=1件増 実績 こいで整形外科、太田歯科医院、松井クリニック=3件増
診療報酬の請求ミスをなくすため、レセプトチェックシステムを導入する。	平成22年度よりシステムを導入し、請求時に病名漏れ等が無いかチェックしている。	△ 目標 当初エラーの抽出=1ヶ月1,300件以下 実績 年 16,371件=1ヶ月 1,364件
外来化学療法を実施する。	平成22年6月外来化学療法加算2の届出により開始。	○ 目標 120人(月5人×2回×12月) 120人×4,200円=504,000円 実績 123人 123人×4,200円=516,600円

新任医師紹介

いわもと たつあき
岩本 竜明 先生



- ①専門分野 ②出身地 ③当院の第一印象
④趣味(マイブーム) ⑤ひとこと(抱負、最近思うこと等)

平成25年1月1日から、麻酔科に岩本竜明先生が赴任しました。

- ①麻酔科(麻酔一般、ペインクリニック)
②静岡県浜松市
③明るくあたたか
④写真、スキー、スポーツ観戦
⑤麻酔をとおして、手術件数の増加、手術部の安全性の維持に貢献できればと思っています。

平成24年度 潜在看護師再就業講習会

平成24年9月12日から14日まで、潜在看護師再就業講習会を行いました。この講習会は、看護師として再就業を希望する方や自己啓発をしたいと思っている方を対象に、最新の看護現場の様子や看護の基礎知識を学ぶ会場型講習会として実施しました。

もう一度看護職に復帰したいと思っている方は、ぜひ当院看護部へご相談ください。



●シミュレーターを使つての注射練習

平成25年度 看護修学生募集

看護師を目指す学生さんに修学資金を貸与しています。当院へ勤務した場合は返済免除となります。

- 資格**▶免許取得後、当院に勤務可能な方
貸与額▶月5万円
受付期間▶随時
審査▶書類審査、面接

問合せ先◎市立湖西病院管理課
☎053-576-1231

市立湖西病院

健康まつり

開催日

平成25年

3月16日(土)

13:00~16:00

内容

1階中央待合ホール

●アンサンブルコンサート

開催時間 13:00~14:30

市内中学校の生徒による演奏

2階

●簡易健康診断 開催時間 13:00~16:00

骨密度測定▶骨密度を測定します。先着100人

血管年齢調査▶血管の硬さと狭窄を調べ、血管年齢を推測・算定します。先着80人

※当日12:45から1階中央待合ホールで整理券を配布します(1人1枚まで)

●栄養科のブース 開催時間 13:00~14:30

エネルギーコントロール食品等のサンプルを配布します。(なくなり次第終了とさせていただきます。)

●講演会 開催時間 15:00~16:00

演題「骨についてのよもやま話」

講師 整形外科部長 杉谷繁樹

●展示コーナー

2月22日(金)に開催した院内合同研究発表会で職員が発表した内容をポスターで展示します。

